



小山高同窓会報

第2号

2019年4月1日

発行

小山高等学校同窓会

印刷 大星印刷(株)

伝統を引き継ぎ、
更なる発展を



同窓会会長
栗田 城

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会に対しまして温かいご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。さて、ご承知の通り小山高等学校は、昨年、記念すべき創立百周年を迎えました。そして、昨年の十一月九日に小山市立文化センターにおいて、創立百周年記念式典が厳粛且つ盛大に、多くの来賓の方々をお招きして行われました。二万四千余名の同窓会員を代表し、改めて心よりお祝い申し上げます。

なお、創立百周年に関する記念事業として、本県出身のノンフィクション作家・評論家の柳田邦男氏を講師としてお招きし、式典終了後記念講演会を実施いたしました。その他の記念事業としては、百周年記念誌や同窓会会員名簿を刊行しました。また、本校の歴史、課程や学科の変遷、部活動の栄光の記録などを集積したアニバーサリーホール（百周年記念資料室）の整備などを行いました。

このような記念事業を実施するに当たり、全面的にご協力いただきました

同窓会の皆様方、協賛いただきました企業の方々、多大なご尽力をいただきました実行委員やPTA及び教職員の皆様方に、記念事業実行委員長として、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

本校は、大正七年（1918年）の創立以来、大正、昭和、平成と三時代に渡って一世紀の歴史を刻んでまいりました。そして、小山高校の新たなスタートといえる創立百一年目の今年は、天皇が退位され三十年ぶりに改元が行われます。新たな年号の開始と共に、小山高校の新たな歴史が始まるということであり、何か運命的なものを感じます。

会員の皆様には、母校のこの大きな節目を契機として、改めて高校時代の思い出を呼び起こし、母校に対する愛着と誇りを再認識すると共に、小山高校卒業生としての絆を更に深め、今まで同様、母校に対する温かいご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、教職員や在校生の皆様も、この機会に小山高校の歴史と伝統を再認識し、時代が変わっても変えてはいけない「不易」の部分を持続しつつ、高度情報化、グローバル化が進む社会に対応できる新たな歴史と伝統を築いていくて欲しいと思います。

結びに、小山高等学校の益々の発展と皆様のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

校長の
あいさつ校長
星 尚志

不屈の歩みを次の百年へ

ご案内のとおり、昨年11月9日(金)本校は創立百周年記念式典を厳粛かつ盛大に執り行うことができました。これも偏に本校の発展にご尽力頂いた本校同窓会の皆様をはじめとする関係各位の多大なるご支援の賜と心より感謝申し上げます。

本校百年の歴史は、大正7年(1918年)小山町立農商補習学校として、小山尋常高等小学校に併置された時点にまで遡ります。以後、校名や設置学科が目まぐるしく変遷することとなります。昭和2年には校名を小山公民実業学校と改称し、同5年には校舎を現在の地に移転。同26年には栃木県立小山高等学校と改称。設置学科は全日制の農業科と商業科で、後に同科定時制も設置されました。同47年には農業科が小山園芸高等学校として分離独立し普通科が併置されました。商業科は昭和50年に全日制課程のみとなり、同63年には商業科から分離するかたちで国際商業科が新設されましたが、平成10

年に両科とも閉課程となつていきます。この間、平成8年に英語人文科と数理科学科が新設されましたが、英語人文科は平成20年に閉課程となります。また、地域に多大な貢献をしてきた定時制課程も平成18年に閉課程となりました。

このように本校が辿った道は決して平坦なものではなくその意味で「不屈の歩み」と申せましょう。そして本校の歴史は関係各位からのご支援を頂きながら、時代の要請や地域の期待に的確に応え続けた歴史と言い換えることができるのです。

本校は昭和47年に「知・徳・体」調和の取れた豊かな人間性の育成を目指す全人教育の理念を指標「聡・直・剛」として定め、以来文武両道の伝統を築きつつ社会に貢献できる有為な人材の育成を目指し、生徒の自己実現に向けきめ細かな指導に努めてまいりました。現在の小山高校は県南の進学校として、生徒達の活気に満ちた学校となっております。

創立百年を機に制定された標語「不屈の歩みを次の百年へ」が示すとおり、これまで本校が辿った誇り高き「不屈の歩み」を、「次の百年」へ繋げる努力を今後も重ねてまいれる所存でございます。今後とも、皆様方からの変わらぬ御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

百周年式典によせて

PTA会長
海老澤 博和

日頃よりPTA活動に対し、物心共にご支援・ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

この度は記念すべき百周年を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。また、伝統ある小山高校に通う生徒を持つ保護者として一緒に記念式典に参加させて頂きましたことは大変光栄に存じます。

さて、創立百周年記念式典では栃木県も関心の高さを示すように、来賓として栃木県知事や小山市長など錚々たる方々にご出席頂きました。その後の創立百周年記念講演会では、栃木県鹿沼市出身のノン

創立百周年を迎えて

生徒会長
石川 星

昨秋、私たちの母校である小山高等学校は創立100周年を迎えました。11月9日の記念式典には福田富一知事をはじめとする多くのご来賓をお迎えでき、心からうれしく思っております。

式典を通じて、私は小高の歴史の重みや地域の皆様との心のつながりを改めて感じる事が出来ました。同時に、多くの皆様に支えていただいていることを実感し、心から感謝の気持ちが湧いてきました。小山高校の制服を身にまとい日々勉学に励むことができることは、私にとって大きな誇りであり、喜びでもあります。

私が小高の一番魅力を感じる点は近年進学実績をめきめきと伸ばしているバイタリティーがあるところ

フィクション作家である柳田邦男氏に日本人としての言葉の大切さについてなどを講演頂きました。しかし私が一番印象に残ったのは、記念講演後の控室での一場面です。柳田氏のもとに一人の生徒が質問に訪れました。世界で活躍することが夢で、今は日本と海外のどちらに学びの重点を置くべきかと聴いていました。柳田氏は嬉しそうに、そして丁寧に、地元の事から順番に学ぶべきだとお答えになっていました。

その様なやり取りを目の当たりにして、小山高校の生徒は常に未来を見据えているのだらうと確認すると共に、だから同窓生の方々は国内外で活躍しているのだらうと納得しました。保護者として小山高校で学んでもらえて本当によかったと改めて思いました。

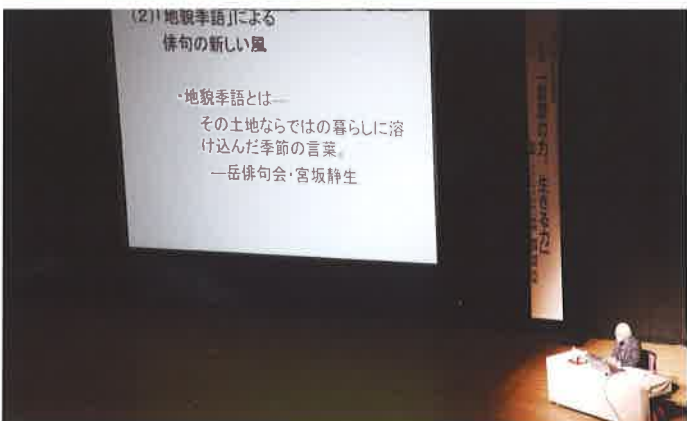
結びになりますが、小山高校の益々の発展と同窓会員みなさまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

です。1968年、野球部が初めて甲子園に出場しました。これをきっかけに進学率が上昇し始めたそうです。1968年こそが今の小山高校の原点かもしれません。

また、小高は三年連続で創立100周年を記念する文化祭、「聡輝祭」を開催しました。来場者数が年々増えていることから地域の皆様の小高への関心の高さを実感するところです。制服をみて「小山高校さんはこの頃勉強頑張っているわよね」と声をかけてくださる方。正門のすぐそばに貼られている部活動の関東・全国大会出場ポスターを見て「小高すごいな。自分の時とはちがうな」と感心してくださる方々。そんな皆さんの出会いがありました。その度に皆様や先輩方の期待にこたえたいという熱い決意が湧いてきます。

現一年生、これから小高生となる後輩には、これから始まる新たな100年の伝統を引き継ぎながら学校を創っていただきたいです。

最後に、式典にご臨席を賜りました皆様に改めて心から感謝申し上げます。





体育館 緞帳の新調



アニバーサリー ホールの整備



小山高校創立100周年記念事業費決算書

収入額 33,279,617 円 支出額 33,279,617 円 差引残額 0 円

1 収入の部

(単位: 円)

項 目	予算額	収入済額	比較増減	適 用
1 寄付金	24,538,500	26,216,964	1,678,464	同窓会積立金等 15,671,796 円 寄付金 7,861,000 円 郵便振替分 2,209,168 円 (手数料引後) P T A 200,000 円 職員親睦会 275,000 円
2 一括徴収金	2,446,500	2,446,500	0	3,500 円 × 699 名 (在校生)
3 協賛金	2,200,000	4,000,000	1,800,000	協賛 122 社
4 借入金	3,255,000	0	△ 3,255,000	借入れなし
5 記念誌売上金	560,000	615,740	55,740	8,000 円 × 77 部 (2 部手数料引)
6 雑収入	0	413	413	利息
計	33,000,000	33,279,617	279,617	

2 支出の部

(単位: 円)

項 目	予算額	支出済額	残 額	適 用
1 記念式典	5,280,000	4,827,250	452,750	
(1) 会場費	400,000	346,845	53,155	小山市立文化センター使用料等
(2) 表彰・記念品費	4,000,000	3,862,416	137,584	花瓶、感謝状、赤飯等
(3) 通信・記録費	250,000	218,498	31,502	案内状等
(4) 印刷費	410,000	166,816	243,184	プログラム等
(5) 消耗品費	220,000	232,675	△ 12,675	紙袋、リボン等
2 記念誌等	9,620,000	9,560,504	59,496	1,500 部
3 記念行事	600,000	559,140	40,860	100 周年講演会謝礼、花束等
4 記念事業	11,950,000	11,759,184	190,816	アニバーサリーホール、緞帳等
5 諸経費	4,550,000	4,748,645	△ 198,645	募金活動費、広告費等
6 予備費	1,000,000	632,520	367,480	協賛広告作成費、テント 2 張等
7 教育活動補助費	0	1,192,374	△ 1,192,374	教育施設等の充実を図るための 助成金として学校へ寄付
計	33,000,000	33,279,617	△ 279,617	



火入れ式



生徒への記念品「フリーカップ」



表彰者への記念品「花瓶」

この度、本校創立百周年記念事業実行委員会では、記念品として生徒の皆さんに贈る「益子焼フリーカップ」の製作を、益子町在住の陶芸家 濱田友緒さんに依頼しました。
一点、点ろくろで成形され、素焼きを経て絵付けが施された作品は、昨年十月二日に登り窯で焼成の運びとなり、栗田城同窓会長と星校長先生、代表生徒ら関係者が「火入れ式」に駆け付けました。

濱田さんが受け継ぐ「濱田窯」は、世界的にその名を知られる陶芸家の祖父 故濱田庄司氏（文化勲章受章・第一回重要無形文化財技術保持者）が創始、のちに国内外の文化・芸術に多大な影響を与えることとなる芸術運動「民藝運動」が、ここを拠点に展開されました。

友緒さんは、「生徒の皆さんが創立百年の

歴史を顧みて、ご自身の未来を展望するにふさわしい記念品にしたい」と、祖父の庄司氏が伝え遺した「登り窯を用いる伝統的な焼成方法で作品を仕上げてくださいました。火入れ式では、生徒会長の石川星さんと生徒百周年実行委員会委員長の菱沼千夏さんがアカマツの薪を窯にくべ、濱田さんの手によって火が灯されました。

完成した作品は、平成三十年十一月九日に執り行われた記念式典において生徒の皆さんにそれぞれ配布されました。星尚志校長先生は「記念品を通して郷土の歴史と自分の将来に思いを馳せてもらうとともに、一つ一つ手作りの作品としての益子焼の魅力を味わってほしい」と語って下さいました。

創立100周年記念事業報告

①記念式典

平成30年11月9日(金)に小山市立文化センターにて、創立100周年記念式典を行いました。記念品として濱田友緒氏に作っていただいた花瓶(表彰者)と、フリーカップ(参加者)を贈呈しました。

②記念講演会

記念式典後、午後にノンフィクション作家・評論家の柳田邦男氏に「言葉の力、生きる力」という演題で講演会をしていただきました。

③100周年記念誌編纂刊行

小山高校の100年の歴史を370ページにまとめました。同窓生の誰もが小高を振り返ることができるものになりました。

④体育館緞帳の新調

創立70周年記念事業で作成しましたが、傷みがひどくなりました。創立100周年を記念して新調させていただきました。

⑤アニバーサリーホール(100周年記念資料室)の整備

小高の歴史、課程や学科の変遷、部活動の栄光の記録などを集積しました。多くの方々に本校に足を運んでいただければと考えています。

⑥同窓会会員名簿の発行

平成28年7月に発行しました。今回で8回目になりました。



同窓会事務局から

お知らせ①

今年度の同窓会総会

同窓生は誰でも出席できます。

二〇一九年五月一日(土) 14時

小山高校学習室2(2F)

総会終了後懇親会も準備しております。

皆様お誘いの上、ご出席ください。

若い同窓生の出席も大歓迎です。

お知らせ②

昨年十一月九日、創立100周年記念式典

が、県知事初めご来賓の御列席のもと小

山市立文化センターで盛大に開催されま

した。今回同窓会報二号は、100周年記念

式典に関する内容となっております。御

協力いただいた方々には御礼と決算報告

を兼ねて、発送させていただきました。

お願い

今回は創刊号から遅れての第二号発行

でした。今後、定期的に会報を発刊する

為には、同窓生の寄稿が不可欠です。

「同窓生の声」という形で色々な情報を

掲載していきたいと考えております。寄

稿していただける方がいらっしゃいまし

たら、同窓会事務局までご連絡下さい。

小山高校 同窓会役員名簿 H31.4.1

	役 職	氏 名
1	顧問	五味 茂
2	顧問校長	星 尚志
3	名誉会長	石崎 進
4	会 長	栗田 城
5	副 会 長	荒川 勝行
6	副 会 長	船渡川 進
7	副 会 長	山本 幸男
8	副 会 長	滝沢 洋子
9	副 会 長	岩崎 晴一
10	副 会 長	小堀 順子
11	副 会 長	菱沼 英子
12	副会長 清山会	阿久津 宣明
13	副会長 教頭	森嶋 秀一
14	副会長 教頭	谷 憲
15	会 計	飯島 哲夫
16	会 計	小林 敏明
17	会 計	大橋 文男
18	会計事務長	山田 均
19	監 事	鈴木 良弘
20	監 事	山中 利一
21	監 事	秋山 静男
22	事 務 局	和久井 明
23	事 務 局	岡本 英雄
24	事 務 局	津布樂 一樹
25	事 務 局	小藤 安正
26	事 務 局	赤石 知里
27	事 務 局	佐々木 美月
28	事 務 局	吉原 小智
29	事 務 局	坂井 梨恵

編集後記

昨年、小山高校は、創立100周年を迎え、小山市立文化センターで盛大に記念式典が開催されました。この歴史的な式典に同席出来た事は感無量でした。

今回100周年記念事業の為の寄付集めを同窓会役員で行う事になり、平成二十九年から私たちは、同級生を中心に訪問しました。卒業して50年、久しぶりにお会いする方々は、懐かしく昔話に花が咲きました。趣意書を説明し、ご理解をいただき、寄付に協力してもらいました。そこには、母校への熱い思いを感じました。苦労も多々ありましたが、とても貴重な経験をさせていただきました。と同時に、皆様への感謝は忘れることができません。これを機に、アニバーサリーホールや同窓会報の充実を計り、小山高校同窓会を盛り上げていく事が大切だと思います。(小堀)

小山高等学校同窓会事務局

〒323-1002

栃木県小山市若木町2-8-51

TEL 0285-12210236